

かわ

2017.4.1

Vol.233 Contents

わがまちのかわ

◎第33回大牟田市(市制100周年) P1 ~ P2

治水事業の紹介 P3 ~ P4

防災情報に強くなろう!! P5 ~ P6

「ふくおか水もり自慢!」報告 P7

災害復旧実務講習会(第2回)報告 P8

ふくおかの身近な川とさかなを知ろう!! P9 ~ P10

No.38 日本の重要湿地：北九州市の干潟編

水辺の花図鑑／協会からのお知らせ



郷土ふるさと 福岡の河川を知る

わがまちの かわ

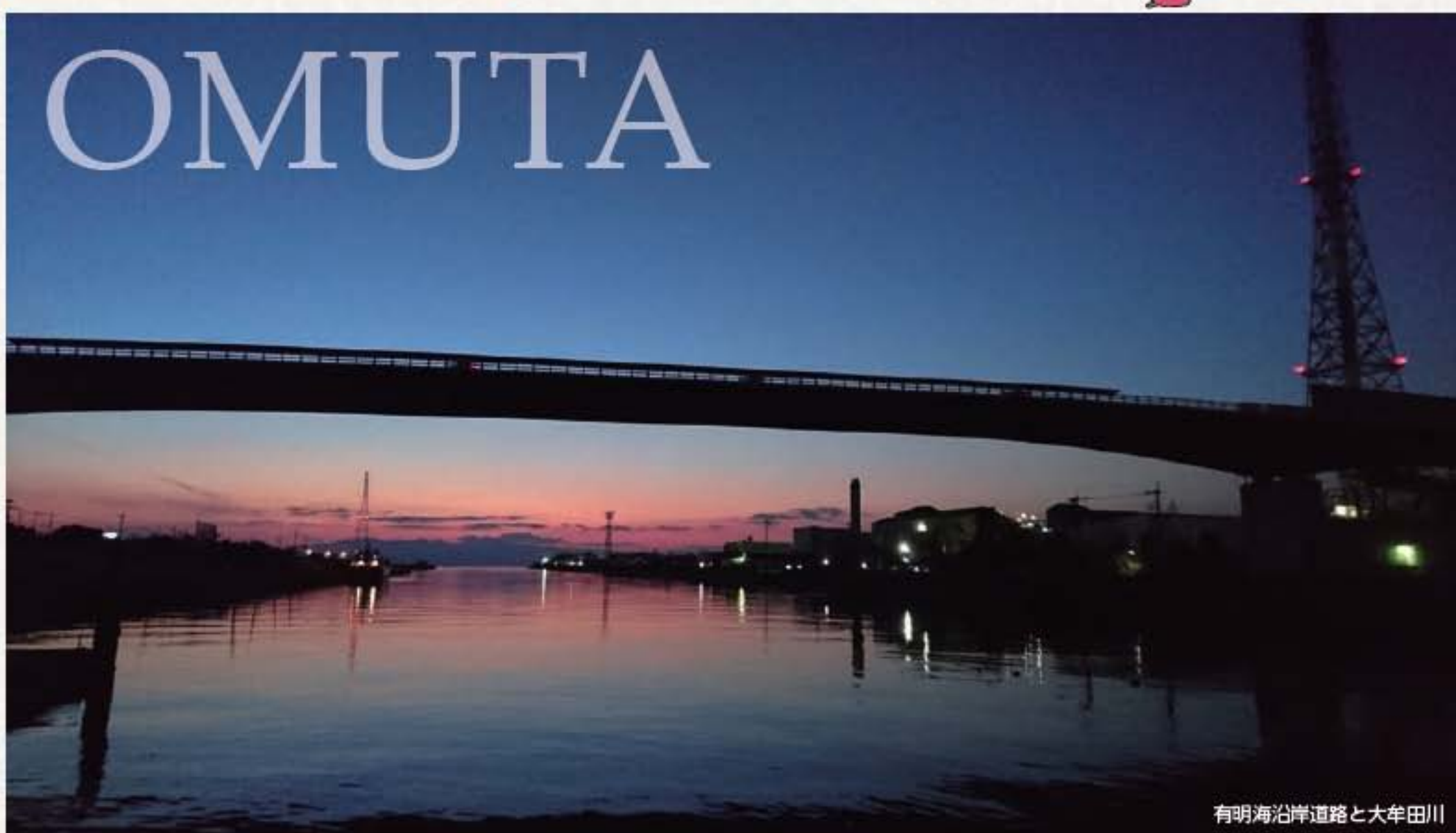
第 33 回

大牟田市

福岡県



OMUTA



有明海沿岸道路と大牟田川

■大牟田市の概要と河川

大牟田市は平成29年に市制100周年を迎えました



大牟田市は福岡県の南端に位置し、熊本県との県境を有しています。東部の三池山等の丘陵地から西部の低平地へ大牟田川をはじめとした約40河川が有明海へ注いでいます。

大牟田川は、延長約8kmの二級河川です。かつては石炭の積出しにも利用され、その流域は本市における社会・経済・文化の中心となっています。一時は水質が悪化し、「七色川」とも呼ばれた大牟田川ですが、水質改善の取り組みによって元の姿を取り戻しました。川沿いの工場群では幻想的な夜景を楽しむことができます。

大牟田市は今年、市制100周年という節目を迎えました。石炭とともに発展してきた歴史と、先人が築いてきた基盤を、今後の100年へ繋いでいくためのまちづくりを進めていきます。



帆船が並ぶ大牟田港(昭和初期)



川沿いの工場群

諏訪川(関川)

諏訪川は延長約25kmの二級河川です。上流の熊本県側では「関川」と呼ばれ、福岡県に入ると「諏訪川」と名前が変わります。ハゼ釣り大会や、カヌーイベントが行われるなど、地域住民の憩いの場となっています。



諏訪川中流部



ハゼ



セイゴ



諏訪川河口部

白銀川他(ホタルの里)

山間部を中心にホタルの生息地が点在しており、5月下旬~6月中旬にかけて観賞できます。市では毎年、目撃情報を元にホタルマップが作成されています。



白銀川



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」

三池炭鉱関連資産

市内に多く連なる近代化産業遺産群は、平成27年に「明治日本の産業革命遺産」としてユネスコの世界文化遺産に登録され、まちのシンボルとなっています。



三池港

九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所提供



宮原坑

おおむた大蛇山まつり

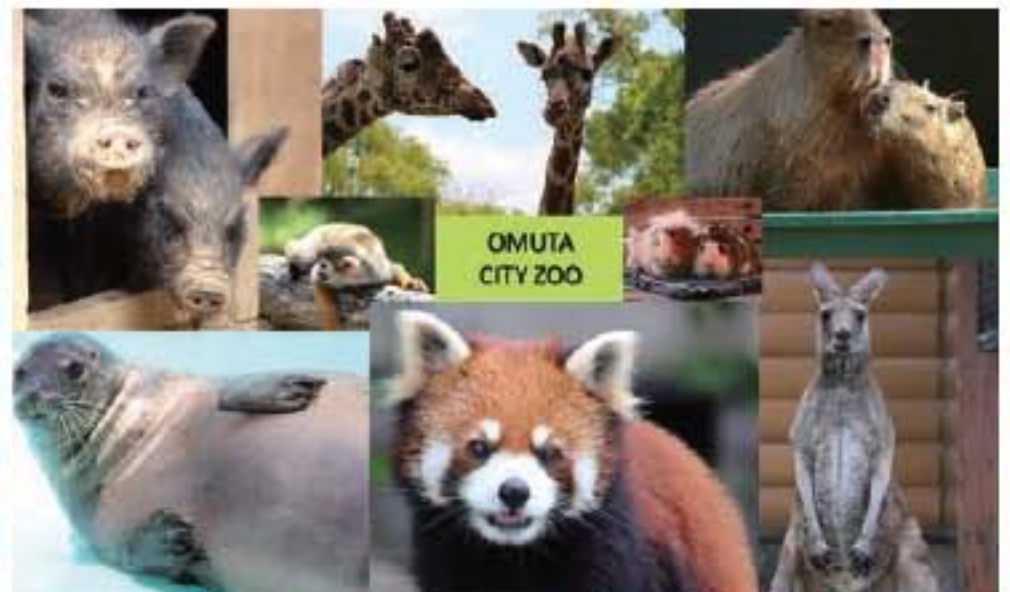
毎年35万人以上の人出で賑わう「おおむた大蛇山まつり」。

300年以上の歴史があり、山車(だし)のことを「大蛇山(だいじゃやま)」と呼びます。炭坑節や大蛇山ばやしで踊る「1万人の総踊り」や勇壮な「大蛇山の競演」等はおおむたの夏を盛り上げ、熱気あふれる姿は必見です。



大牟田市動物園

県南唯一の動物園である大牟田市動物園は、人々の憩いと学びの場として親しまれています。麻酔をせずに採血をするハズバンダリートレーニングをはじめとする動物福祉の取り組みは全国でも高く評価され、昨年「エンリッチメント大賞2016」で大賞を受賞しました。



OMUTA CITY ZOO

治水事業の紹介

福岡県は、台風や梅雨前線の影響を強く受ける地域であり、近年では局所的豪雨も多発しております。記憶に新しいところでは、平成11年・15年豪雨では博多駅が浸水するなどの被害が発生し、平成21年豪雨では那珂川町役場が浸水するなどの被害が発生しました。また、平成24年の豪雨は、戦後最大の昭和28年豪雨を上回るもので、八女市黒木の雨量観測所(気象庁)では7/13～7/14までの累加雨量が500mmを超える大雨となりました。

このような雨が川に集中して流れ込むと、流域では甚大な浸水被害が発生するため、県民の生命・財産を守るために、河道改修やダム建設など、河川の総合的な治水事業を行っています。

近年豪雨の被害状況



H15年博多駅航空写真



H15年博多駅地下



H21年那珂川町役場



H24年八女市山下地区



H24年八女市山内地区

現在実施中の治水事業例

沖端川河川激甚災害対策特別緊急事業

沖端川は、矢部川下流の派川として、その分派地点をみやま市の矢部川右岸に発し、柳川市の中心部を流下して有明海に注ぐ一級河川です。平成24年7月14日の未明から昼頃にかけて、矢部川上流で降った雨により、矢部川の船小屋水位観測所(国管理)において観測史上最高水位9.76mを記録し、氾濫危険水位8.4mを長時間にわたり越えました。その結果、矢部川で1箇所、沖端川で2箇所の堤防決壊が発生し、沿川に大きな被害をもたらしました。

本事業は、河道掘削や築堤、橋・堰の改築などを行うことで、平成24年7月14日の梅雨前線豪雨と同じ規模の洪水を、氾濫させることなく流すことを目的とした事業です。

被害状況



被害状況



【橋の改築状況】



【堰の改築状況】





高尾川床上浸水対策特別緊急事業

高尾川は、太宰府市高雄山を源流とし、西鉄二日市駅付近の筑紫野市中心部を貫流し、御笠川に合流する二級河川です。平成26年8月22日の朝方に局所的に猛烈な豪雨が発生し、近傍の太宰府雨量観測所で最大1時間雨量98.5mmを観測するなど、沿川に大きな被害をもたらしました。

本事業は、この豪雨により生じた被害に対して、高尾川に地下河川を設置し、また橋梁架替を行うことで、家屋の床上浸水被害を解消することを目的とした事業です。

被害状況



水道橋上流

被害状況



水道橋周辺



防災情報に強くなろう!!

＋ 避難情報に注意しよう！

市町村は、気象警報や土砂災害警戒情報の発表、河川の水位の状況などから判断して、避難に関する情報を発表しています。

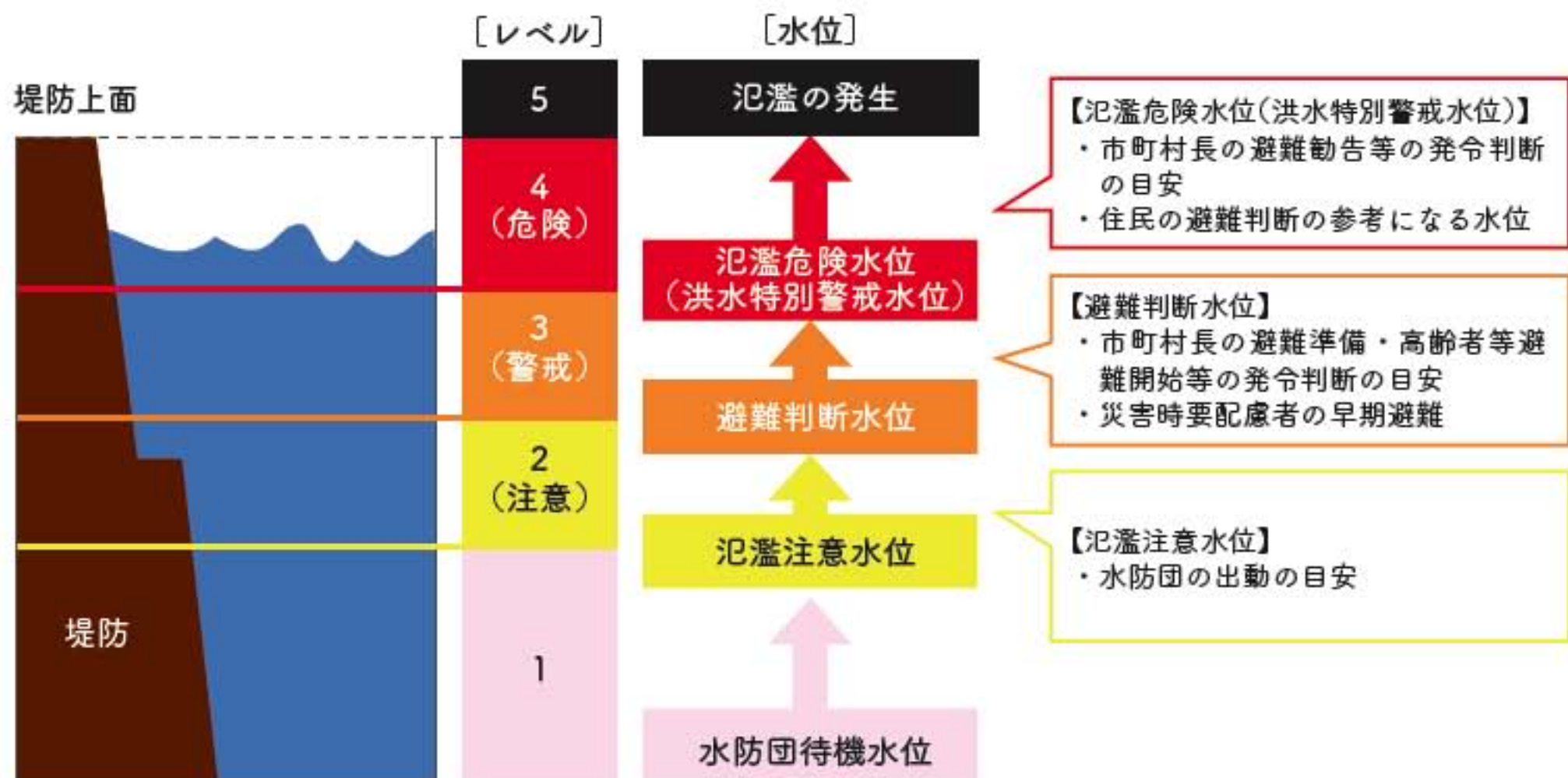
避難に関する情報は、市町村ホームページ、防災メール、防災無線、サイレンなどを通じて発表されますので、日頃から防災情報の入手方法の確認をし、出水時には的確な避難行動をお願いします。

避難情報の種類	発令時の状況	発令されたらこんな行動を！
避難指示 (緊急) ※	<ul style="list-style-type: none"> ●災害の前兆現象が発生したり、切迫した状況から人的被害の発生が非常に高まった段階、または人的被害が実際に発生した段階。 ●ただちに避難を完了しなければなりません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難中の方は、確実に避難を完了しましょう。 ●避難がまだの場合は直ちに避難を始め、時間の余裕がないときは、命を守る最低限の行動をとりましょう。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> ●人的被害が発生する恐れがさらに高まった段階。 ●通常の避難行動がとれる人も避難を始めなければなりません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定された避難所へ、避難を開始しましょう。 ●地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難しましょう。
避難準備・高齢者等避難開始 ※	<ul style="list-style-type: none"> ●人的被害が発生する恐れが高まった段階。 ●避難に時間のかかる人（避難行動要支援者）は避難を始める必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難に時間のかかる人（ご高齢者、障がいのある方、乳幼児をお連れの方等）は、指定された避難所への避難を開始しましょう。 ●それ以外の方は、避難の準備を開始しましょう。

※避難準備情報、避難指示は、H28.12に上記のとおり名称変更されました。

＋ 河川水位（危険度レベル）と避難情報

水害に関する情報として、水位観測所では、河川の水位を24時間観測しており、観測所毎に氾濫発生の危険度に応じた水位が設定されています。



＋ どうやって防災情報を集めるの？

テレビやラジオ、インターネットからいろいろな情報を集めることができます。
 テレビなどで出ている情報からは避難するタイミングがわかりますので、平常時から知っておくべき情報、大雨が降りだしたときにチェックすべき情報など、うまく活用しましょう！！

へいじょう ごう

平常時・豪雨時問わず活用できる情報源

★福岡県防災ホームページ
 【<http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/index.php>】




★防災メール・まもるくん
 (防災情報メール配信)
 【<http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/mamorukun/service.html>】




へいじょう

平常時に確認しておくべき情報源

★ハザードマップ
 (各市町村)



★福岡県避難支援マップ
 【<http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/shienmap/>】




ごう

豪雨時に活用できる情報源

★河川防災情報 【<http://www.kasen.pref.fukuoka.lg.jp/bousai/>】




★土砂災害関連情報 【<http://www.sabo.pref.fukuoka.lg.jp/index.html>】




★地上デジタルテレビ放送



〈使い方〉

① リモコンの d ボタンでデータ放送画面を表示

② 上下左右ボタンで見たい観測所を選択して表示



＋ 質問コーナー

Q まだ川から水が溢れていないのに、「氾濫危険水位」を越えると、なぜ避難をする必要があるの??

A 避難判断の参考となる水位である「氾濫危険水位」は、市町村から避難勧告等が発表されてから、住民の方々が最寄の避難所に移動するために必要な時間を考慮しているため、川から水が溢れる前に避難に関する情報が発表されています。氾濫危険水位を越えている河川は、氾濫のおそれが高まっていますので、避難情報や気象情報などを参考に避難の判断を行ってください。

≡ 水 もり 自慢! ≡

第13回 ふくおか水もり自慢! in 古賀

平成 28 年 12 月 3 日に古賀市リーパスプラザこが交流館において、「ふくおか水もり自慢! in 古賀」が開催されました。今回で 13 回目を迎えた「ふくおか水もり自慢!」は、福岡県内の「水」・「もり(森)」(山林、川、ため池、水田、水路、海、干潟など)に関わる活動をしている団体(学校、市民団体、NPO、企業、国、地方自治体)が一堂に会し、異分野交流や行政と市民とのパートナーシップを促進するとともに、他の団体の活動内容を学び、今後の活動の糧とするためのイベントです。

今年の水もり自慢では、3件の基調講演と42件の活動報告が行われました。活動報告では、市民団体や行政や大学などの団体が、寸劇やパネル発表などを通じて、川に関する活動を熱心に報告していただき、「水もり」に関わっている様々な団体が参加し、交流を深めることができました。

次回の第14回「ふくおか水もり自慢!」は筑後ブロックで開催予定です。詳細については、決まり次第、福岡県河川課HP等でお知らせいたします。多くの方のご参加をお待ちしています♪

【活動報告の状況】



千鳥ヶ池を紹介します
【古賀市立千鳥小学校】



復活! ホタルの里!!
【古賀市立小野小学校】



九州川の応援団の活動
【九州大学】

発表団体(敬称略、順不同)

【基調講演】(3件)

緒方義幸(津屋崎千軒 海とまちなみの会 景観デザイン委員会委員長 ふくつ環境リーダー)、宿理英彦(古賀市緑のまちづくりの会)、島谷幸宏(九州大学大学院工学研究院教授)

【活動報告】(42件)

古賀市立千鳥小学校、堀なおし network 蒲池堀割委員(矢部川をつなぐ会構成団体)、八女市立星野小学校、近畿大学 SWEEP、特定非営利活動法人アザメの会、矢部川をつなぐ会、めだかの学校、福岡大学工学部社会デザイン工学科、遠賀川流域子ども水フォーラム、古賀市環境市民会議生物調査と保全、豊の国海幸山幸ネット、福岡南小学校、福岡工業大学社会環境学部森山研究室、小野小学校、古賀市はたるの会、福岡県県土整備部河川開発課、直方川づくり交流会、中川区防風林を守る会、古賀市千鳥地区コミュニティ、YNHC(青少年博物学会)、古賀河川図書館、筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会、九州産業大学景観計画研究室、古賀東校区コミュニティ協議会、古賀市西小校区コミュニティ、大根川クリーンネット、福岡大学工学部社会デザイン工学科、ASCJ(Aloha Style Clean Japan)、朝倉市に小水力発電を進める会、宮司地区郷づくり推進協議会、筵内地区、NPO 法人「小竹に住みたい」まちづくりの会、九州大学大学院工学研究院流域システム工学研究室、福岡県県土整備部河川課、土居自然学校、福岡県北九州県土整備事務所、龍王・山・里・川の会、堀川再生の会・五平太、薦野の歴史をつなぐ会、古賀市市民劇団 DAICOON



第2回

福岡県災害復旧実務講習会の報告

日時 平成28年12月22日(木) 10:20～16:35

場所 (公財)福岡県建設技術情報センター3階 大研修室



平成28年度福岡県災害復旧実務講習会(第2回)(主催:福岡県河川協会)を開催し、県内市町村及び県土整備事務所から約80名に参加いただきました。

当講習会は、適正かつ迅速な災害復旧事業を推進するため、災害復旧の実務を行う担当者に向けて、年2回開催しています。

第2回目である今回の講習会では、平成28年発生災害査定総括や査定に関する留意事項の説明、災害査定事例紹介等、平成28年の災害を振り返り、平成29年に繋げるプログラムとしました。

「災害査定事例紹介」では、添田町道路整備課の宗近氏に発表してもらい、市町村職員の申請者目線で災害申請から査定までの流れや注意点を非常に分かりやすく説明して頂きました。

また、「災害復旧申請における留意事項等」では、国土交通省九州地方整備局の田中技術検査官から、査定官として他県に出向かれた事例等、申請者とは違った視点でのお話をして頂き、有意義な講義となりました。

平成29年度も災害復旧事業に係る各種講習会を予定しており、初任者から経験者まで幅広くお役にたてる内容を企画してまいりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

平成28年度福岡県災害復旧実務講習会(第2回)プログラム

1. 開会挨拶
2. 平成28年災害査定総括
3. 災害復旧事業費の国庫負担金
交付申請手続きと精算・成功認定について
4. 災害復旧事業の繰越手続きについて
5. 災害査定に関する留意事項
～平成28年災を踏まえた今後の留意事項～
6. 災害復旧事業の設計変更と
合併・合冊について
7. 平成28年災害復旧の主な運用改変について
8. 河川災害復旧工事における留意事項
9. 道路災害復旧工事における留意事項
10. 平成28年災害査定事例①～河川災～
11. 平成28年災害査定事例②～道路災～
12. 災害復旧申請における留意事項等
13. 質疑応答
14. 閉会挨拶



添田町 道路整備課 宗近氏



九州地方整備局 田中技術検査官

災害申請時の留意点

申請者心得10箇条(災害手帳)

[不確かならば] 災害手帳及び災害査定の手びき

→それでも不明であれば、県に確認(市町村の場合)

まずは 災害講習会への積極的な参加

おに くら
鬼 倉
のり お
徳 雄



奥畑川河口および大積干潟のシロウオ



【日本の重要湿地：北九州市の干潟編】

前 回から、皆さんにご紹介することとなった「重要湿地」。知らない方にもう一度。日本国内で、生物多様性の観点から重要度の高い湿地を「重要湿地」と呼んでいて、平成13年に日本の重要湿地500、そして、平成28年にその改定版が環境省より公表されており、福岡県内からは現在、19の湿地が選定されています。環境省ではその目的を「湿原・干潟等の湿地の減少や劣化に対する国民的な関心の高まり、ラムサール条約における湿地定義の広がりなどを受けて、ラムサール条約登録に向けた礎とすることや生物多様性の観点から重要な湿地を保全すること」と位置付けており、実際にいくつかの重要湿地はラムサール条約登録湿地となっています。前回ご紹介したのは、福岡県福津市の「津屋崎干潟および周辺農業用水路」と「古賀市および福津市のため池群」の2か所。今回は、北九州市内の干潟編として、「奥畑川河口および大積干潟」と「曾根干潟」をご紹介します。

ま ず、最初に、「奥畑川河口および大積干潟」です。タビラクチ、チワラスボ、トビハゼ、マサゴハゼ、ヒモハゼ、シロウオなどの生息地であることが、その選定理由として述べられていま

す。「希少種の生息」という選定基準を満たします。これらは、干潟の埋め立てなどで生息地を全国的に減らしているハゼ科の魚たち。ちなみに、環境省は「絶滅危惧種の種名と位置情報が公表された場合、乱獲および過剰採取リスクが高まるため、記載内容について情報の加除・修正を行った」としており、希少魚のコレクターが狙うような種の情報は削除されていることでしょう。実際、私はこの地域で調査を行ったことがありますが、他にも希少な魚が…。そういったリスクを考慮して、「…などの生息地」とされているのかもしれない。オープンになっていない生物種の分布も含めて重要な干潟であることをここで付け加えておきたいと思います。

続 いて、「曾根干潟」。こちらの選定理由はかなり多い！シロチドリ、チュウシャクシギ、ダイゼン、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、キアシシギ、ハマシギ、ハウロクシギ、アカアシシギ、オオジシギの渡来地（シギ・チドリ類）、ズガモ、ツクシガモの渡来地（ガンカモ類）、ズグロカモメの渡来地（湿地性鳥類）、カブトガニの産卵地、ツバサゴカイ、ムギワラムシ、ハクセンシオマネキなど貴重な種の生息地（底生生物）

が選定理由です。「希少種の生息」、「多様な生物相を有している」、「特定種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生息」という3つの選定基準を満たします。曾根干潟については魚類の情報は挙げられておりません。恐らく、鳥類と底生動物に比べて、魚類についての公開された情報が少ないためと思われます。しかしながら、我々の調査では数種の希少魚の生息を確認できております。多岐に渡る分類群のいずれにおいても希少種が生息している大変重要な場所だにご理解ください。そして、奥畑川河口および大積干潟についても、魚類では熱心に調査が行われ、魚類の情報に基づいて選定が行われたにすぎず、こちらも他の分類群を含めて希少種がたくさん生息している場所だと理解しておきたいところです。

さ て、これらの重要な2つの干潟を持つ北九州市ですが、福岡県内の市町村行政の中では環境への意識がとても高いまち！平成22年11月に生物多様性地域戦略を策定しております。国が生物多様性基本法の中で、地方自治体に対して地域戦略の策定を規定したわずか2年後に、しかも名古屋で実施された生物多様性条約第10回締結国会議と同じタイミングに…。さすがです。

北 九州市生物多様性地域戦略の基本理念は、「都市と自然との共生～都市のなかの自然・自然のなかの都市～」です。都市の機能と自然の機能が相反することなく相方ともに発揮されている調和のとれたまちを…と書かれています。そして、先に述べた重要湿地は、同地域戦略の中で、「北九州市の重要な生息・生育環境」として、陸水域の箇所と沿岸域の箇所で抽出されています。特に、2つ目に紹介した「曾根干潟」については、「施策の方針と展開」の箇所でも、曾根干潟を希少な動植物が生息する場として、また、多様な生物が生息する生態系が成り立っている価値の高い干潟として位置づけ、生態系の保全と利用についての方針が描かれています。北九州市の曾根干潟での自然環境保全の取り組みは、環境省の重要湿地500の時期よりも早く始まったようで、それを考えたとき、もしかしたら北九州市の積極的な姿勢が環境省からのお墨付きを受けるための呼び水

になったのかもしれませんが。今後も、行政と市民等が一体となって、北九州市内の重要湿地が大切にされることを期待しております。さて、前回より恒例。最後に、本日、登場しました生物種のうち、タビラクチ、ヒモハゼ、シロウオとハクセンシオマネキの写真を掲載！



■ タビラクチ
奥畑川河口および大積干潟



■ ヒモハゼ
奥畑川河口および大積干潟



■ ハクセンシオマネキ
曾根干潟

おにくら のりお
鬼倉 徳雄 — NORIO ONIKURA —

- 九州大学大学院農学研究員・助教
- 日本水環境学会九州支部・評議委員
- 日本魚類学会自然保護委員会・希少魚類部会委員

主な著書／

- 有明海の生きものたち
干潟・河口域の生物多様性（佐藤正典編）
- 干潟の海に生きる魚たち 有明海の豊かさと危機
（日本魚類学会自然保護委員会編）

【水辺の花図鑑】

フヨウカタバミ (オキザリス)

カタバミ科オキザリス属

■開花時期:11月~4月

■撮影地:福岡市東区松崎、
多々良川周辺

■撮影者:Oishi.N



南アフリカ原産の帰化植物。園芸用として渡来したが、野生化しているものが多い。名前の由来は、フヨウ(芙蓉)の花に似ているため。花言葉は「輝く心」
(花しらべ 花図鑑より)



協会からのお知らせ

平成29年度 災害復旧事業に係る研修及び講習会一覧

日程/会場	研修・講習会名	主催
平成29年4月21日(金) (公財)福岡県建設技術情報センター	福岡県災害復旧実務講習会(第1回)	福岡県河川協会
平成29年5月11日(木)~12日(金) 砂防会館別館(シェーンバッハ・サポー)	平成29年度災害復旧実務講習会	(公社)全国防災協会
平成29年5月23日(火)~24日(水) (公財)福岡県建設技術情報センター	災害復旧実務研修	(公財)福岡県建設技術情報センター
平成29年5月下旬以降 北九州・筑豊・福岡・筑後北部・筑後南部の各庁舎で開催予定 【平成28年度実績:5月30日~6月7日】	災害復旧実務ブロック講習会	県土整備部 河川課 道路維持課
福岡県の災害査定期間中 災害査定現場ほか 【平成28年度実績:6月14日】	災害査定臨場研修	県土整備部 河川課
平成29年12月頃 (公財)福岡県建設技術情報センター 【平成28年度実績:12月22日】	福岡県災害復旧実務講習会(第2回)	福岡県河川協会

※いずれの研修も県内市町村及び出先事務所の災害復旧事業担当者を対象としています。

編集
後記

今回は、福岡県が行っている治水事業を紹介しています。最近の水害等はいつどこで発生するか予想がつかないため、「防災情報」に関しても紹介しております。また、「川とさかなを知ろう」では、シロウオの表情なども必見です。(古賀)

◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL:092-633-2826(直通)
FAX:092-643-3669
企画 正光印刷株式会社

福岡県河川協会ホームページ

<http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasennyokai/>

